

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、特記すべき事項はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間の経済環境を概観しますと、先進国が堅調に推移したものの、新興国では成長の鈍化が見られ、全体として緩やかな回復傾向となりました。米国経済では、シェールガスに代表される技術革新等により成長が拡大、債務危機を抱える欧州経済も回復基調となり、長期低迷からの脱却の兆しが見られました。一方、新興国経済は、中国で減速傾向が続いたほか、その他の新興国でも中国向け輸出の減少や米国の量的緩和縮小観測による資金流出などにより、成長が鈍化しました。

こうした中、わが国経済は、金融・財政政策の効果や、家計や企業の景況感の回復により上昇基調を維持しましたが、輸出が伸び悩むなど、緩やかな回復に留まりました。

このような環境のもと、豊田通商グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は新規連結会社及び円安による為替の影響により、前年同四半期連結累計期間を9,973億円(21.2%)上回る5兆7,040億円となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、周辺環境の変化に対応するため、平成25年4月1日より一部の本部を改編し、また、生活産業・資材本部については名称を生活産業本部に変更しております。

#### ①金属

鉄鋼分野では、海外自動車生産増加に 대응するため、事業会社の能力増強に取り組みました。非鉄金属分野では、引き続きレアアースの生産に向けて取り組みました。鉄鋼原料分野では、使用済み自動車のリサイクル率向上に努め、長年にわたる同取り組み等が評価され、トヨタ自動車株式会社とともに、内閣総理大臣賞を受賞しました。売上高については、円安による為替の影響により、前年同四半期連結累計期間を1,011億円(8.0%)上回る1兆3,605億円となりました。

#### ②グローバル生産部品・ロジスティクス

インドネシア最大の自動車部品メーカーであるPT Astra Otoparts Tbk.に出資し、同国における自動車関連事業の拡大・強化のための協議を開始しました。また、中部国際空港株式会社、日本空港ビルデング株式会社などと共同で、独立行政法人国際協力機構のインフラ事業調査制度を活用し、インド・グジャラート州における新国際空港の建設・運営への参画のための事業化調査を開始しました。売上高については、円安による為替の影響により、前年同四半期連結累計期間を591億円(9.8%)上回る6,618億円となりました。

#### ③自動車

ケニアでの日野自動車株式会社のトラック現地組み立てを開始するとともに、販売・サービス拠点を新設し、営業を開始しました。また、新興市場において良質なアフターサービスを提供するために、株式会社デンソー及びアイシン精機株式会社とともに、カンボジアでトータルカーサービス直営店PIT&GO Automotive Service (Cambodia) Co., Ltd.を設立しました。売上高については、新規連結会社の影響及び海外の自動車販売増加により、前年同四半期連結累計期間を3,895億円(66.6%)上回る9,740億円となりました。

#### ④機械・エネルギー・プラントプロジェクト

国際貿易が拡大しているケニアにおいて、三井造船株式会社とともに、東アフリカ最大の貿易港であるケニア・モンバサ港の港湾クレーン案件を同国より受注しました。また、米国北東部の電力安定供給に貢献するため、Competitive Power Ventures Holdings, LLC及びArcLight Capital Partners, LLCとともに、米国・ニュージャージー州で天然ガス焚き火力発電所の建設・運営に参画しました。売上高については、石油製品等の取り扱い増加及び円安による為替の影響により、前年同四半期連結累計期間を1,540億円(16.4%)上回る1兆918億円となりました。

#### ⑤化学品・エレクトロニクス

化学品分野では、マレーシア・トレンガヌ州で、ガラスや半導体の原料となるシリカサンドを採掘・精製する会社Terengganu Silica Consortium Sdn. Bhd.に出資することに合意しました。また、紙おむつ需要の拡大に対応するため、当社グループ会社である、SDPグローバル株式会社の中国現地法人三大雅精細化学品(南通)有限公司における高吸水性樹脂の生産能力を増強することを決定しました。売上高については、主に新規連結会社の影響により、前年同四半期連結累計期間を2,593億円(26.3%)上回る1兆2,466億円となりました。

⑥食料

穀物分野では、豪州の穀物集荷・輸出事業会社の機能を活用して、日本及び東南アジア諸国への豪州産穀物の販売拡大に取り組みました。食品分野では、国内外での食品流通事業拡大のため、国分株式会社と協力関係を構築すべく、業務提携契約を締結しました。売上高については、新規連結会社及び円安による為替の影響により、前年同四半期連結累計期間を308億円（14.7%）上回る2,408億円となりました。

⑦生活産業

リビング&ヘルスケア分野では、医療事業拡大のため、セコム医療システム株式会社及びインドのキルロスカ・グループと共同運営を行う総合病院を、インド・バンガロールで部分開業しました。保険分野では、豊通保険カスタマーセンター株式会社と豊通ファミリーライフ株式会社を統合し、国内トップクラスの保険代理店となる豊通保険パートナーズ株式会社として、国内事業の拡大・強化に取り組みました。売上高については、円安による為替の影響により、前年同四半期連結累計期間を39億円（3.2%）上回る1,261億円となりました。

利益につきましては、営業利益は売上総利益の増加等により1,194億77百万円となり、前年同四半期連結累計期間（811億13百万円）を383億64百万円（47.3%）上回りました。経常利益は1,238億11百万円となり、前年同四半期連結累計期間（943億23百万円）を294億88百万円（31.3%）上回りました。一方で、税引後の四半期純利益は、前年同期の段階取得に係る差益の影響等により前年同四半期連結累計期間（584億95百万円）を9億15百万円（1.6%）下回る575億80百万円となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間において、特記すべき事項はありません。